

哲學研究

第五卷 第二十二冊

第七十五號

大正九年十二月一日發行

カントとシュライエルマッヘル

..... 文學士 勝部謙造

基督教修道院の宗教思想
..... オプアーツ 日野眞澄

原始僧團に於ける比丘の極重罪(完結)
.....

..... 文學士 手島文倉

プラトンの美學(承前)
..... 文學博士 深田康算

彙報 新著紹介

京都帝國大學文學部

京都哲學會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
- 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推選シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分ケテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	波多野精一
文學博士	西山幾多郎
文學博士	朝永三十郎
文學士	千葉胤成
文學博士	狩野直喜
文學博士	米田庄太郎
文學博士	高瀬武次郎
文學博士	田邊元
文學士	務臺理作
文學士	植田壽藏
文學博士	野上俊夫
文學博士	松本文三郎
文學博士	深田康算
文學博士	藤井健治郎
文學博士	小西重直
文學士	澤村專太郎
寶嚴方治	

書記

本誌は從來編輯事務を京都に於て執り發行を東京寶文館に委任致し居候爲め校正其他編輯上多大の不便を感じ居候處幸ひ近來京都に於ても我邦文化の一重要中心として出版印刷の業も漸次勃興の氣運に向ひ候に就ては今回大正十年二月號より發行所を京都内外出版株式會社に変更致すことに決定仕候間右御了承有之度此段會員諸君に謹告候也

尙本誌が創刊當初諸事不整頓の狀態よりして現状の如き發展をなし得たるは最初より利害を離れて盡力致吳候寶文館の熱心と厚誼とに負ふ所尠らず候本會は此機會に於て同館に對し深厚なる謝意を表し候

大正九年十二月

京 都 哲 學 會

謹啓

別紙京都哲學會々告の通り本誌の發行所を大正十年二月以後變更せらるゝ事に相成候に付ては事務整理の都合上本誌の發送及前金の拂込に關し左記の通り協定仕候間御承知下され度奉願候

一、本誌の發送は來一月發行の分までは従前の通り現發行所寶文館、二月發行の分よりは新發行所内外出版株式會社にて取扱可申候。

一、前金拂込濟の各位中(京都哲學會員以外)前金切に相成候節は總べて新發行所内外出版株式會社へ拂込下され度候但し大正十年一月發行以後の分に對し既に御拂込濟の分に對しては前金切に至る迄前項に依り本誌を發送仕るべく候

一、二月發行分以後に對する新規の御注文は總べて新發行所内外出版株式會社へ御申込下され度候。

追て從來現發行所寶文館に對し多大の御引立を蒙り候段難有御禮申上候尙新發行所たる内外出版株式會社に對しては一層の御同情御引立を賜はり候様願上度此機會を利用して茲に謹て御禮旁御願申上候 敬 具

現發行所

東京市日本橋區本石町二丁目

東京寶文館

新發行所

京都市下京區新町七條上
東京市京橋區加賀町十番地

内外出版株式會社

振替口座大阪參貳九五五番

前 號 目 次

近代労働者階級の哲學思潮	文學博士	米田庄太郎
知覺と想像	文學士	務臺理作
原始僧團に於ける比丘の極重罪(承前)	文學士	手島文倉
アッハの意志說	文學士	大脇義一
彙報、新著紹介		

●著名の一唯界論辯●

辯論に巧なる者は勝つ

速に本書の備付切望す

本書は論理學の大家たる今福先生苦心の成果にして、本邦唯一の應用論
理書なり。方今雄辯術に關する著書尠からずと雖も、未だ本書の如く徹底
的に論理の應用を説けるものあるを見ず。現代論辯界の缺陷も亦大なり
といふべし。著者茲に見る所あり、苦心數年稿漸く成りて、今回之を公にせ
らる。本書は其名の示す如く、論場唯一の必携にして、叙する所極めて詳細、
而かも東洋の論理たる因明をも融化して、渾然たる論辯の一系統を組織
す。即ち先づ論題の性質論、立證の責任論、證據の種類等を詳叙し、又立論法
を細説して、之に對する謬論を明かにし、駁論、論破の諸方法をも明示し、さ
ては論議、演説、討論の心得にまでも言及せり。されば彼のテイレンマにか
かれる者も亦本書を一閱せば、忽ち其陥穽を脱出するの道を發見するを
得ん。引例又最近活社會の活事例を採る。苟くも言論を以て世に立たんと
する者の一讀を要するもの、乃ち敢て本書の備付を學生・教師・政治家各位
に薦む。

再版

論辯學の奧義

布裝美本全一冊
定價金壹圓五十錢
送料金拾貳錢

東京帝國大學
文學部講師

文學士 今福忍 著

大阪東區淡路町
(振替大阪四三)

寶文館

〒日本橋區本石町
(振東京二八〇)

會 告

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候
 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下度候
 一、會費ハ振替口座大阪榮〇六六番番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學
 文學部内 京都哲學會
 振替口座大阪榮〇六六番番

冊	冊數	定價	價	郵	稅
一冊	冊	金四拾錢	金	壹	錢
六冊(前金)	冊	金貳圓四拾錢	不	申	受
十二冊(前金)	冊	金四圓八拾錢	不	申	受

廣告料 一頁 金貳拾圓 半頁は取扱不申

註 文 規 定

◎會員にあらざる識讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候
 ◎本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候
 ◎振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候
 ◎前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
 ◎見本御入用の場合は金四拾錢御送り下され度候
 ◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

大正九年十一月二十七日印刷納本
 大正九年十二月一日發行

第五十七號 第五卷
 第十二册

不許複製
 禁轉載

京都帝國大學文學部内

編輯者 京都哲學會

右代表者 寶嚴方治

發行者 大葉久吉

印刷者 青柳十一郎

印刷所 秀英舍第一工場

發行所 東京日本橋區本石町三丁目
 (振替口座東京二八〇番) 寶文館

發賣元 東京市日本橋區本石町三丁目
 大阪市東區淡路町四丁目 寶文館

賣捌所 (東京) 東京堂、東海堂、北隆館、
 上田屋 (大阪) 盛文館 (京都)
 寶文館 (神戸) 寶文館

東京高等師範學校教授

荻原 擴著

(最新刊)

倫理學概論

布裝全一冊

定價金四圓五拾錢

送料金拾八錢

倫理學は堅苦しいもの、讀んで趣味の無いものとは、誰も思ふであらうが、これは未だ本書を讀まぬ人の言で、一度本書を手にしたなら、終まで讀了せねば止められない程趣味が津々と湧いて來る。著者は東京高等師範學校の教授で、我國では吉田博士と共に斯學の權威として令名噴々たる人である。本書は著者が學校で講義せられた草稿に一念に手を入れられたもので、倫理學の一般を謹嚴苟もせざる而も流麗暢達平易明晰な文章で嚙んでくゝめる如く説明されたもので、東西古今の學說を引用して一々批判を加へ一讀斯學の要領を會得する様にと努力された一面には、大戰以後泰西雜多の新思想が輸入されて我國人心の動搖不安を來し、人々歸嚮する所に迷へるといふ現代の世相を概して、書中是等の新說を引き、一々眞面目に批評を加へて讀者をして道德の根柢標準といふ點に就て不拔の見識を確立させようと圖られたので、師範學校倫理科學生や文檢受験者の參考書として好適な計りでなく、一般讀書子殊に有識階級の諸君子にして現代の混沌たる思潮に對して嚮ふ所に迷へる者に取つて絶好の讀物として推奨するに憚らない。

大正五年四月六日 定價金四拾錢

東京日本橋區石町番 寶文館 大坂東區淡路町番 大坂東區大町番 大坂東區大町番 大坂東區大町番